

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成31年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
榎田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
木川 洋	株式会社大阪フェルナンデス	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
杉山 徹	ミュージシャン学科 学科長		学校責任者
豊島 芳樹	音楽技術学科 学科長		学校責任者
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者
白藤 浩史	ダンス学科 学科長		学校責任者
横山 友之	楽器ビジネス学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 ②学会や学術機関等の有識者
 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
 年間2回の実施(10月、3月)
 (開催日時)
 第1回 平成30年10月25日
 第2回 平成31年3月14日 / 平成31年3月15日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 ・意見:大手楽器工場だけでなく、工房レベルでもNCルーター等、コンピューター制御の大型機器が導入されている傾向にある。その操作・管理に関するスキルを在校時に身につけておくことが大変有利と思われる。またCADやIllustratorといったソフトに関する知識は、同業系他業種でも必要とされる知識なので、授業で扱うとよいのではないかと。
 ・活用状況:引き続き「エレクトロニクス」で学習する電気回路の設計にCAD系ソフトを活用する取り組みを行っている。また、Illustratorを扱うカリキュラムを「業界概論」の授業計画に取り入れる。
 ・意見:新しい機材や、便利な道具が業界でも多く使用されているので、少しでもそれらに触れる機会を作るべき。また一方で、そういった新しい道具の原理を理解させるためにも、古くから使われている伝統的な道具・工法を紹介することは引き続き行っていくべきだと思われる。
 ・活用状況:引き続き伝統的な道具・工法を授業でレクチャーしながら、業界で活躍する講師陣に実際に現場で使用されている道具を積極的に持ち込んでもらい、授業の中で紹介する機会を増やしている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と連携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ・講師派遣における学内授業の実施
 ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
 ・前後期試験の実施、作品・実習等における採点、出席率等総合評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
クラフト実習	スタンダードモデルのコピーからフルオリジナルまで、ギター・ベースの製作を行います。具体的な工具の使用法、木工加工、塗装や組み込み等の製作工程などを基礎から順序を追って学びます。	松原工房
エレクトロニクス	エレキギター・ベースと周辺機器、音響機器などの電気回路について学びます。また、エフェクター製作やアンプ等の修理を通して基本的な電気回路の設計や半田付けの技術などを習得します。	カナヤ光輪株式会社LM楽器部 2nd factor

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めている。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。			
(2) 研修等の実績 ① 専攻分野における実務に関する研修等 ・2018年9月19日～20日 フジゲン株式会社/株式会社寺田楽器製作所/株式会社ヤリギター 楽器製作指導教員1名参加 内容: 楽器製造の現場である工場・工房を見学、伝統的な技術から最新の製造技術に触れ、製作技術の研究を行う。 ② 指導力の修得・向上のための研修等 ・2019年3月26日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員69名参加 内容: 今時の学生とのコミュニケーション研修会			
(3) 研修等の計画 ① 専攻分野における実務に関する研修等 ・2019年9月24日～25日(予定) 長野県・愛知県のエレキギター製作工場、岐阜県のアコースティックギター工房を見学予定 楽器製作指導教員1名参加 内容: 楽器製造の現場である工場・工房を見学、伝統的な技術から最新の製造技術に触れ、製作技術の研究を行う。 ② 指導力の修得・向上のための研修等 ・2020年3月24日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員70名参加 内容: コミュニケーションスキル教員研修会			
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1) 学校関係者評価の基本方針 学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。			
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目		
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標		
(2) 学校運営	学校運営		
(3) 教育活動	教育活動		
(4) 学修成果	学修成果		
(5) 学生支援	学生支援		
(6) 教育環境	教育環境		
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集		
(8) 財務	財務		
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守		
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献		
(11) 国際交流	※該当なし		
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3) 学校関係者評価結果の活用状況 学校関係者評価を基に、施設・設備の新規設置や地域連携などの点において、次年度カリキュラム等への反映について審議をいただいている。新設の設備備品については「時代背景を考慮した新しさは必要であるが、学びの場である以上本質的な作業工程の意味合いを理解しやすく、汎用性を兼ね備えたものを選択の基準とすることが望ましい」との意見を頂く。また、業界での就職においてはPC操作スキルが望まれているので、環境の整備を継続するよう進言があった。Office系Draw系授業のPC入れ替えを検討し、新年度に向けて入れ替えを行っている。			
(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
平成31年3月31日現在			
名 前	所 属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白電社取締役)	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	卒業生
瀧川 紀征	株式会社リパフォーラ 代表取締役会長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	企業等委員
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等			
(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ) ホームページにおいて公開(URL: https://www.cat.ac.jp/data/)・令和元年10月末			
5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係			
(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針 本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。			
(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの項目	学校が設定する項目		
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標		
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要		
(3) 教職員	講師、特別講師		
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声		
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表		
(6) 学生の生活支援	※該当なし		
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内		
(8) 学校の財務	学校の財務		
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価		
(10) 国際連携の状況	※該当なし		
(11) その他	※該当なし		
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3) 情報提供方法 ホームページにおいて公開(URL: https://www.cat.ac.jp/data/)			

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 楽器ビジネス学科 ギタークラフト専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			楽器業界概論	楽器ブランドやメーカーの成り立ちを楽器の歴史を織り交ぜながら学習していきます。将来進んでいく楽器業界そのものを理解することで、就職活動などに生かしていくことを目的とした授業です。	1・2年 通年	124	8	○			○	○			
○			クラフト講義	ギター・ベースについて基本的な構造や製作工程、使用する工具の取り扱いなどを学び、実際にクラフト実習で製作する作品のプランニング・設計～図面作成を行います。	1年 通年	62	4	○			○			○	
○			ヴィンテージゼミ	取り扱いが難しく復元の方法も限定されるオールド楽器の特徴を、調整・修理の際に必要な楽器別の知識や注意点と合わせて学びます。オールド楽器への理解を深めることを目的とした授業です。	2年 通年	62	4	○			○			○	
○			クラフト実習	スタンダードモデルのコピーからフルオリジナルまで、ギター・ベースの製作を行います。具体的な工具の使用法、木工加工、塗装や組み込み等の製作工程などを基礎から順序を追って学びます。	1・2年 通年	620	20			○	○			○	○
○			リペア実習	エレキからアコースティックまで、さまざまなギター・ベースの修理・調整を習得する授業です。作業を効率化するための工具製作や、基本的なりペアをより発展させた応用技術も扱います。	1・2年 通年	434	14			○	○			○	
○			エレクトロニクス	エレキギター・ベースと周辺機器、音響機器などの電気回路について学びます。また、エフェクター製作やアンプ等の修理を通して基本的な電気回路の設計や半田付けの技術などを習得します。	1・2年 通年	248	8			○	○			○	○
○			音響基礎	音響に関する知識を学び、ステージで使用されるアンプや音響機器（ミキサー、マイク等）の取り扱い等を習得、実際の現場を想定したアーティストとのコミュニケーション能力を高めます。	1・2年 通年	186	6			○	○			○	
○			イベント制作	授業で製作した作品の展示会や中古楽器販売の模擬実習等の企画・運営を通して、楽器を扱うスペシャリストとしての知見を広める実習を行っています。	1・2年 通年	64	2			○	○			○	
○			業界研究	楽器業界について様々な角度から研究する授業です。業界就職についての対策講座や、楽器工場・メーカーの見学、他専攻・講師等から持ち込まれる楽器に対してよりリアルに技術を磨いていきます。	1・2年 通年	136	4			○	○			○	
合計					9科目	1936単位時間(70単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。 なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者が打ち合わせの上決定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	前期16週、後期15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。